

平成 23 年度 地域懇談会

平成 24 年 2 月 26 日(日)

午前 10 時～11 時 30 分

健康文化センター1階 多目的室

1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第 27 条による課題

ごみから資源再生へ ～ごみ問題の現状と展望を考える～

2. 対象地域

南地域(秋田・豊田・大屋敷)

3. 懇談会パネリスト(8名)

秋田区長 佐竹重夫

豊田区長 土田康雄

議会議員 岡 孝夫

議会議員 丹羽 勉

町 NPO 登録団体サラダボールカンパニー 遊佐弘毅

秋田地区 水谷由美

豊田地区 大森明美

大屋敷地区 野田裕子

4. 懇談会出席者(3名)

大口町長 森 進

地域協働部長 近藤定昭

環境課長 杉本勝広

5. 司会進行

地域振興課長 平岡寿弘

6. 会議記録

地域振興課長補佐 佐藤幹広

地域振興課長（平岡寿弘） 皆様方には大変お忙しい中ご参集いただき、誠にありがとうございます。ただ今から地域懇談会を始めさせていただきます。本日の司会進行を務めます地域振興課長の平岡です。よろしくお願いします。

この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長が議会、自治組織、その他さまざまなまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催するものです。本年度は「ごみ問題の現状と展望を考える」をテーマに、各種の取り組みや今後の展望に対して、ご意見を聞く機会としてまいりたいと考えています。本日は町長を座長に、座談会方式で進めさせていただきますので、よろしくお願いします。それではパネリストの皆さんを紹介させていただきます。

＜パネリストを紹介＞

地域振興課長（平岡寿弘） 環境課長の杉本より「可燃ごみ減量に向けた取り組み」について説明させていただきます。

＜環境課長、スライド「可燃ごみ減量に向けた取り組み」に基づき説明＞

地域振興課長（平岡寿弘） これより座長を中心に意見交換を行っていただきます。パネリストの皆さん、よろしくお願いします。

町長（森進） 環境課長から、ごみ減量 20%に向けた町の取り組みを説明させていただきました。しかし見ていただいたとおり、残念ながら実績としては 10%強の現状にとどまっています。まだまだごみの分別、可燃ごみ減少のための努力を町民の皆さんの協力のもとに進めていかねばならないということを、これからも町民の皆様をお願いしてまいりたいと思います。

本日の懇談会は、まちづくり基本条例にあります行政が住民の皆さんの意見を聞く機会であります。昨年までは、住民の皆さんにお話するテーマについて説明して、最後に質疑応答という形で進めさせていただきました。23年度においては今日を含めて3回目ですが、大口町を三つの地域に分けて、18日は北地域、昨日は中地域、本日は南地域というふうに、パネルディスカッションの形式で地域懇談会を実施させていただいています。

テーマについては、行政だけでは到底できない、住民の皆さんの協力と理解の中で進めていかねばならない、そして、皆さんの生活に最も密着しているテーマということで、ごみについて、1時間半ぐらいでパネリストの皆さんと意見交換していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

本日、パネリストとして参加していただいているサラダボールの、外国人を対象に開催した資源ごみ分別の説明会について、ご紹介いただきたいと思います。

前田さん、よろしくお願いします。

サラダボールカンパニー（前田みどり） サラダボールカンパニーは、愛知万博の前年 2004 年にできた NPO 団体で、当時は、ニカラグア・ナイジェリアのフレンドシップ国との交流会などのお手伝いをさせていただきました。現在は、大口町内や近隣に住む外国籍の方の身近な生活のサポートということで翻訳、通訳、相談を受けています。今日紹介させていただくのは、外国籍の方を対象にしたごみの分別について報告させていただきます。

＜前田氏、スライドを説明＞

町長（森進） サラダボールが取り組んだ衛生カレンダーの翻訳版が、傍聴者の皆様のお手もと

に順次回っていると思いますが、大口町内に、環境あるいは外国人の方のお世話ができるようにということで、住民の皆さんがボランティアとして団体を作られて活動していただいています。そういう先進的な取り組みが住民の皆さんによって進められているわけです。そういう中の一つの活動だと思います。

今、前田さんから話がありました垣田区においては、中国人に対して日本語教室を開催しています。日常生活を送る上でなるべく不便にならないようにということで、サラダボールの協力を得てそのような事業を実施しています。

環境課長から、現在の可燃ごみの中身、どういうものが中に入っているか説明していただきたいと思います。

環境課長（杉本勝広） 可燃ごみの組成、大口町が独自で調査した結果を報告させていただきます。大きく分けて三つになります。リサイクル可能なごみ（プラスチック、ビニール類・紙類）が41%、厨芥類が32%、本来燃やさざるを得ない可燃ごみが27%です。

リサイクル可能であろうごみの中のプラスチック、ビニール類、紙類は分かりやすいと思いますが、実はこの中に缶やビンも入っています。現実問題としてそれが焼却炉の中に入ると大変なことになるということも、この場をお借りして報告させていただきます。

町長（森進） 報告しましたように、まだまだ可燃ごみとして出されている中に、資源ごみに分別できるものが入っているようです。それぞれのご家庭でいま一度確認していただき、分別していただくようお願いしたいと思います。

町では、リサイクルセンターを開設したり、ポイント制度を導入したり、資源ごみの分別に力を入れています。正直言って、新しい手を打っても手詰まりの状況があります。以前から進めている取り組みが十分に徹底されていない部分もあるし、新しく提案した事業についても、協力していただける方と受け入れていただけない方との温度差があって、いろいろな機会を利用して周知・協力をお願いしていかなければならないのが現状です。

本日出席のパネリストの皆さんに、大口町の現状をご理解いただいた上で、今後可燃ごみ減量のためにどのような取り組みができるのか、また、したらいいのか、その辺りのアイデア・ヒントを、この懇談会が始まる前に書いていただいております。それぞれお示しいただき、時間の制約がありますので一人2分程度でお話ししていただければと思います。

まず、秋田区長の佐竹さんからお願いします。

秋田区長（佐竹重夫） 私は広報と書きました。毎年4月になりますと廃棄物減量推進員が任命されます。この方たちが地域に戻って、率先して「こういうごみはこうだよ」というふうにやって地区から盛り上げていかないと、ただ、行政の方が無線で「何月何日にどこどこで」というだけでは、地域の方ではなかなか分別が分かりません。直接担当者が地域に入って、その場に立ってきちんと指導するようにすると、もう少しごみの資源化、分別がうまくいくと思って、広報と書かせていただきました。

町長（森進） それぞれの行政区で、区長さんのもとの、資源ごみの収集日に当番の方に出ただいて分別の徹底を図っていただいているところなんです。最近あまり耳にしなくなりましたが、以前は収集時間以外に持ってみえる方があるという話を聞いたことがあります。最近耳にしなくなったので、住民の皆さんの中で、相互に理解し合っているのかと思っています。

続いて豊田区長の土田さん、お願いします。

豊田区長（土田康雄） 堆肥発酵菌の無料配布を考えました。というのは、生ごみの減量ということで町の方でも進めていただいています、そういう中でも可燃ごみの中に 32%程度の生ごみがあるということです、それを減量していこうということになると、町の方でやっている堆肥発酵関係を、エコステーションでも堆肥化しているが、一般家庭から出る生ごみを減らす方法としたら、やはり堆肥発酵菌を無料配付するようになると、さらに減量が進むと思いました。

町長（森進） 先ほどパワーポイントでもありましたように、大口町では生ごみを堆肥化する機械の購入助成、さらには河北の地域では自主的に生ごみを回収して、エコステーションで堆肥化する取り組みをしています。その取り組みが河北だけではなくて、大口町全域に広がったらと思ってスタートしましたが、いろいろな問題があって、町全体には広がっていない現状です。これについても進めていかねばならないと思っています。

それでは岡議員さん、お願いします。

議員（岡孝夫） 「問題の層別とコスト開示を」と、キーワードを書かせていただきました。問題の層別というのは、もう少し分けて考えたらということです。

一つ目は、ごみそのものを減らそうとしているのかということです。不要なものを買わないとか。高槻市のホームページに書いてあったのは、「大型冷蔵庫は事実上の生ごみの発生機です。ごみ袋を調べてみるとパックされたままの豆腐や漬物類が出てきます。この割合は生ごみ類の 13%もあります。チラシを見ていっぱい買ってしまわずに、計画的に買い物しましょう。冷蔵庫の中も定期的に点検して、食品を手つかずのまま捨ててしまうことのないように気をつけましょう」と出ていました。

他には、ごみ自体を軽くしようとしているのか。例えば、生ごみの水分除去が主目的であれば三角コーナーの使い方を考えるとか、いろいろあると思います。

それから、先ほどもありましたけれど、可燃ごみに混入している資源ごみを減らそうとしているのか。例えば、こんなものがこんなに混ざっているとアピールした方がいいということです。

もう一つは、循環型社会を目指し、生ごみの堆肥化を通じてごみを減らしたいのか。いろいろなパターンを分けて考えた方がいいということで、層別という言葉を使わせていただきました。

それから、「もっとコスト開示を」と書かせていただきましたが、江南丹羽環境管理組合の負担金を、もっと住民の皆さんに知らせる必要があると思っています。23年度の当初予算ベースで 1人当たり 8,000 円ぐらいです。工事の関係もあるかもしれませんが、1世帯にすると 22,000 円ぐらい。違っていたら訂正してください。我々の税金からこれくらいのお金が支払われています。リサイクルセンターを利用して、減量型のごみ袋をもらって、それで捨てている人は直接的なコスト意識がないと思うんです。実際はこんなにお金が掛かっているんだよということをもっと発信してごみを減らして行って、浮いたお金は別のことに使えることをもっとアピールしてもいいと思います。

町長（森進） 環境課長、江南丹羽の負担金の話はどうですか。

環境課長（杉本勝広） 数字的にはその通りです。ただ、1人当たり年間 8,000 円は、江南丹羽で処理しているごみの処分料が一人当たり 8,000 円ですので、他に収集する費用、資源を中間処理業者に持っていく費用を加えると、一人あたり年間約 2 万円掛かっている計算になります。

町長（森進） 岡さんからご指摘がありました。いろんな面で私どもも取り組んでいます、私どもなりに、取り組みについて整理するということが必要なのかも分かりません。分別してリサイクルすれば、正直、経費的には高くつきます。ですから、そういうことも皆さんにお知らせして、少しでも協力していただくことも必要かと思えます。分別はやればやるほどお金がかかるというのも現状です。

丹羽議員さん、お願いします。

議員（丹羽勉） きわめて単純明快、「資源ごみの回収回数を増やす」です。今も説明がありましたように、可燃ごみの中には資源ごみになる新聞とか雑誌、特に雑誌などが多いように伺っています。それらを回収することによって、可燃ごみが減量される。資源ごみの収集も月1回しかないの、これへの対応を増やすことによって、可燃ごみが減量できるのではないかと考えています。

町長（森進） 生ごみの収集を始める頃、今から20年ぐらい前のことですが、こんな議論がありました。大口町は農地がまだまだ十分にある地域だ。各農家では、生ごみを収集に出すということがイメージになかったようで、屋敷畑とか、田んぼに持って行く。あるいは穴を掘って埋める。生ごみを袋に入れて収集に出すということ、またそれにお金を掛けるとはどういうことだという話を聞いたことがあります。しかし、今になってみれば、ごく自然に、指定された曜日になると、家庭から当たり前のように出されます。それが今の生活、今の日常です。

お話がありましたように、生ごみの組成からすれば、さらに資源ごみの分別は可能だし、これを徹底すれば焼却ごみの減量につながっていくと思います。しかし、これは一人一人の皆さんのご家庭でのご協力がないことには、なかなか徹底できないことですので、引き続きよろしく願います。

それでは、女性の立場でお話を聞いてみたいと思います。前田さん、お願いします。

サラダボールカンパニー（前田みどり） 今回のキーワード、いろいろ考えました。「ズームアウトして見つめる」です。どういうことかということ、少し引いたところから多面的に見ていこうということです。まず、可燃ごみありきで考えないで、生産段階から考えていく必要があると思います。社会全体で見つめ直す。生産者、販売者、生活者、それぞれがそれぞれの立場で考えていく。具体的には、簡易包装や量り売り、おばあちゃんの知恵ではないですが、食材を考えていくところでは無駄なく使いきる、必要なものだけを買う。余分を買って捨ててしまうのではなく、必要な分だけ買う。生活のスリム化を考えていくのもいいと思いました。食材を無駄なく使いきるというのは、野菜などに限ってですけれども、料理講習会なんかを開いていただいて、昔の知恵をいただきながら、自分たちも勉強して生活に生かしていくのもいいと思いました。

それから、3R(リサイクル・リデュース・リユース)をそれぞれの立場でもう少し意識付けして、今後の生活に還元していくといいと考えました。

町長（森進） 今日の地域懇談会のメンバーには見えませんが、昨日はアピタ大口店の店長さん、18日はバローの店長さんに、販売される側の意見をお聞きしたいということで出席をいただきまして、バローにおいては配送の関係をごみの減量・分別というところで行っている、アピタについては店舗で発生するごみを集約して処理している、そういう取り組みをご紹介いただきました。本日はメンバーに見えませんが、私からご紹介をさせていただきました。

今お話があったように、社会全体で生産する部門、販売する部門、消費者が、それぞれの役割の中でやることはいっぱいあるわけです。それが現実には連携していないというのが現状で、こうしたことも、大口町という地域の中で取り組めることと、もう少し大きな単位の中で取り組まなければならないことがあるわけですが、今後ともご意見を伺う中で、関係する皆さんとお話をし、一歩でも前に進めていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

続いて、水谷さん。

秋田地区(水谷由美) 「プラごみのルート回収」と書かせていただきました。我が家で一番よく出るごみは、プラごみが多くなっています。リサイクルセンターでも集めていますが、働いていると9時から4時という時間帯は出しづらいというのがあります。できれば平日を休みにして日曜日を空けてもらおう。それがむずかしいのであれば、可燃ごみを回収しているのと同様に、プラごみを週1回でも収集に出せると、もう少し可燃ごみが減るんじゃないかと思います。

町長(森進) 確かに、リサイクルセンターの状況を見ていると、容器包装プラスチックの割合が多い気がします。かさばるということもありまして、水谷さんの家庭の現状も踏まえてお話をさせていただけたと思います。

続いて大森さん、お願いします。

豊田地区(大森明美) 「子どもたちにエコ意識を」にしました。やはり頭が柔らかい子どもたちに、小さい頃からエコ意識を育てる。保育園で紙芝居とか、学校の授業ではごみの現状を教えたり、それから、学校や保育園に簡単にごみステーションをつくって、家庭から資源ごみを持って来させたら、もうちょっとお母さんやお父さんも意識を持ってくださるんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

町長(森進) 大口町の小学校や保育園でごみの減量、堆肥化について取り組んでいる状況や、江南丹羽環境では小学生の社会見学をやっていると聞いたことがありますが、それについて紹介できることがあれば、環境課長、お願いします。

環境課長(杉本勝広) 江南丹羽環境では、学校のカリキュラムの中で、たしか小学4年生だったと思いますが、施設を見るという授業が組まれています。小学生はそういうところを見学して勉強しています。

大口町の保育園では、全園に生ごみ処理機を置いています。保育園で出るものはすべてそこで堆肥化されて、農地に還元しています。そういうことを子どもに見せる教育をしているかという、少し臭いが出るので、ふちの方に追いやられているのが事実ですが、そういう取り組みをしています。

先ほどプラごみのルート回収というご意見をいただきました。昨日の懇談会でも、可燃ごみ・プラごみ・紙・生ごみをルート回収したらというご意見がありましたが、コストとの関係を検討していかないとはいけません。同じパッカー車では収集できないという現実があるので、水谷さんのご意見を否定するわけではありませんが、コストの関係は検討していく必要があると考えています。

町長(森進) 今お話させていただいたような取り組みは現状でもやっていますが、まだまだ子どもたちにいろんな場面で大口町の現状や、資源の少ない日本でこれからどうしていくんだということも、学校教育と連携してやれることがあると感じましたので、教育委員会や学校の先生方

ともお話をさせていただいて進めていきたいと思えます。

それでは野田さん、お願いします。

大屋敷地区（野田裕子） 私は「考えを変える」としました。漠然としていますが、大口町ではいろいろなことをきちっと、一生懸命にやってもらっていますので、日常困っていることはありません。家の中では、プラスチックごみと生ごみを分けることになってから、前はたくさんごみが出ていましたが、それが半分に減って、今では意識的にも減らすようになりました。

生ごみも、残飯は出さないようにきれいに食べたり、野菜の皮もあまりむかないように考えたり、日常そういうことをやっています。冷蔵庫の中の食べ物も残り物にならないように、残っていると息子が冷蔵庫の中をチェックしてくるので、常に目配りをしています。ですので、冷蔵庫の中は空っぽというか、本当に使う分だけ買っています。

一方で、ごみが多いということは、それだけお金も回るかなと思ったり、元気があるからごみが出るという考え方もあるのかなと思ったりもしています。

町長（森進） 昨日も女性の方から話があったんですが、買い物をするときから少なめに買い物をするという話を聞くことができました。野田さんから話があったのも、そういうことではないかと感じました。買い物の段階から余分なものは買わない、少なく買う、そうしたことがごみを減らすということにつながっていくと思えます。

それでは、一通りパネリストの皆さんからアイデア・ヒントを伺いました。その中で生ごみの関係が大半であったわけですがけれども、平成3年、平成10年から町が取り組んでいる堆肥化容器、生ごみ処理機について、助成制度の内容、実績等について、環境課長から紹介していただきたいと思えます。

環境課長（杉本勝広） 制度については、平成3年度から始めています堆肥化容器については、補助率2分の1で上限が5,000円。生ごみ処理機は補助率2分の1で上限4万円となっています。実績は、平成3年から総トータルで堆肥化容器504件、処理機が220件になっています。

今申し上げたのは大口町が補助金を出している生ごみに対する施策です。その他に、住民団体で「大口のごみ減量考える会」があり、EM菌を使ったぼかしを積極的に進めています。そちらで出ているバケツの数はいくつか分かりませんが、役場の玄関ホールでぼかしの販売をいただいています。

町長（森進） 本日傍聴にご出席の皆さんに聞いてみたいと思えます。環境課長から説明しました堆肥化容器あるいは生ごみ処理機を、町の助成制度を含めて、過去に使った、あるいは今も使っているという方がございましたら、挙手をお願いしたいと思えます。

<傍聴者挙手>

町長（森進） 今日20名強の方にご出席していただいているわけですが、5分の1ぐらいですね。まだまだ周知されていないと思えます。

パネリストのみなさん、このあたりについて何か解決策、またはアイデア・ヒントがあればお聞きしたいと思えますが、いかがですか。

豊田地区（大森明美） 先ほども言われましたが、ごみ減量の会が出しているバケツの方が皆さん手軽で持ち運びがいいと言われます。それを使ってみえる方も聞いていただけませんか。

町長（森進） それでは、ごみ減量のバケツが具体的にどのようなものかをご説明いただいてから、

挙手をお願いすることにします。

豊田地区（大森明美） リサイクルセンターでも緑色のものを出していましたが、役場でも第 1 と第 3 の水曜日に、ぼかし販売と一緒に 1 セット 500 円(バケツ・ぼかし 1 個)で販売しています。

町長（森進） 使ったことがある、または使っているという方、挙手をお願いします。

<傍聴者挙手>

町長（森進） 町が助成している堆肥化容器、処理機の半分ぐらいのようですね。

大屋敷地区（野田裕子） 私もボカシのバケツをリサイクルセンターのポイントでもらったんです。使い出して、まだ一つなので毎日ごみを入れていると足りなくなります。1 個ためると堆肥ができるまで 3 か月ぐらいかかるらしいので…

<「そんなにかかりませんよ」という声>

そうなんですか。まだ、勉強不足で分からないのですが、なんかふたを開けるのが怖いような、いろんな異臭がすると言われて、まだ勉強段階なんですけど、そんな感じがしています。

町長（森進） やっぱり情報がきちっと伝わっていないということと、そういう機会に、興味を持っていただくことも必要じゃないかと思いました。いろいろと町がごみの問題も含めて啓発していますが、アンケートなんかで「どういうところで知ったか」と聞くと、「全く聞いたこともない」という回答が、率として高い。そんな中で、一番よくきちっと伝わるのが口コミだという話を昨日聞きました。野田さんと大森さんの間で、同じものを使って対応していただけているというベースはあるが、情報がきちっとないことによって、有効的な活用・利用ができる部分がまだあると思いました。そんな所も、私どももなんとかつないでいく必要があると併せて感じました。

先ほどパワーポイントで話をしました河北エコリサイクルの取り組みについて、会場の皆さんでご承知の方は見えますか。どういう取り組みだとことをご説明していただけるような方はおみえですか。

<挙手者なし>

町長（森進） 河北の地域で生ごみの堆肥化をやっているということをご承知の方は手を挙げてください。

<傍聴者挙手>

町長（森進） 半分弱の方がご承知だということですね。

これは地域の皆さんが取り組みを始められたことです。ご承知のように河北には、大口町、扶桑町、江南市の 1 市 2 町のごみ焼却施設があるわけです。その地元の河北の上郷という地域で、施設が昭和 47 年にできてかなり老朽化していた、平成 17 年 11 月のごみ減量とセットになってくるわけですがけれども、生ごみを減らそうということで、堆肥化に取り組み始めたんです。これは地域の皆さんが地域で自主的に始めたことです。

内容は、道の角にポリバケツを置いて、それぞれの家庭から出る生ごみをポリバケツに入れていただく。そのポリバケツを回収して焼却施設の一角にあるエコステーションに、そこに堆肥化する機械が 3 台あって、そこで堆肥化する。その堆肥を、河北上郷の地域の皆さんが野菜作りのための堆肥として使っておられます。できた野菜をバザー等に出されるんです。残った野菜は漬物にして、さらに出される。そんなことをやって循環させています。それが河北の上郷という地域から、今ではもう少し南の仲沖、二ツ屋というところまで拡大されています。

しかし、自分たちの出した生ごみを自分たちの目に見えるところでリサイクルしていこうというところでスタートしたわけですが、私どもとしては、大口町全域に広めていきたいということで河北の皆さんの協力を得てスタートさせたが、いろんな課題・テーマがあって、全町的には広がっていかないというのが現状です。

もう一つ、河北のエコリサイクルの会の活動を紹介させていただきたい。昨年3月11日、東日本大震災が発生しました。河北のエコリサイクルの会の皆さんが東北の被災地へ野菜を170キロ、被災地へ直接送ることは問題があって受け入れは難しかったようですが、岩手県の遠野というところにNPO団体があって、そこを介して、エコリサイクルの会が野菜を現地へ、郵送料を含めてお送りいただいた。大口町の中で、一つ一つではあるが確実に地域の皆さんが連携してやっていただける、非常にありがたい取り組みだと思っています。これが、一つの地域で収まることなく、大口町全体に広がって、ごみの減量10.48%を早く20%に近づけたいと思っています。皆さんにもそういう取り組みをいただけるなら、お声掛けをいただくと助かると思っています。

それでは、今いろいろと生ごみについてお話を聞きましたが、もう少し話の内容を広げて、今それぞれ、例えば行政区では秋田の区長さんからありました、4月にごみの減量推進員が交代されて、新しい推進員さんのもとの、各行政区が分別収集していただいているが、それぞれ区長さんとして、ごみの関係、あるいはNPO団体でボランティア活動している女性の方にも出席していただいているので、そういう立場で何か、ボードに書いたこと以外にお話ししていただけることがあれば、お話ししていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

はい、前田さん。

サラダボールカンパニー（前田みどり） 私自身よく分からない部分があってお聞きします。16年度と比べて20%の減量という目標ですが、どういう経緯で20%なのか説明をいただきたいのと、あと10%以上減らすということで、私たちも意見を言わせていただきましたが、具体的にこの部分を何g減らしたら20%に到達するとか、主婦の目線からそういったこともお伺いできればと思います。

環境課長（杉本勝広） 20%という数字に達するまでいろんな議論をしています。3%、8%、12%、15%と色々な議論がされましたが、実は大口町のごみ減量は、平成16年度時点でリサイクル率の高い方の自治体であって、20%はとても達成不可能というか、本当に真剣に取り組まないといけないような、かなり高いハードルの数字であったと記憶しています。しかし、町民の皆さん、大口町の場合は特に事業系の皆さんが多いんですが、事業系の方にご協力いただければ、3年とは言わないまでも4、5年あればできるのではないかとということで、高いハードルでしたが、セットしたのがこの20%です。手の届かないと思えるところを目標にする、もう少し頑張ればできるというところまで上げられないかということで、事務方には非常に厳しい数字でしたし、町民の皆さんが宣言されて、当然プレッシャーを感じながら仕事していますが、かなり厳しい数字であることには違いありません。

具体的にということですが、この20%の目標は重量比ですので、議論していただいているとおり、生ごみを減らさないと達成は無理です。容器包装、雑紙など議論の余地はありますが、とにかく重たいものは生ごみ、生ごみに含まれている水分を減らさないとできない数字です。ですから、生ごみの堆肥化を、集中型・分散型だということで議会ともいろいろ議論をしてきましたし、

予算の関係でもいろいろさせていただきました。何とか生ごみを堆肥化できないかということで進めてきました。生ごみの堆肥化ができれば、20%はクリアできるところまで来ているのが現状です。

質問に的確に答えられていませんが、いずれにしても20%は我々の目標値であり、3年という目標は守れませんでした。なんとか達成できるように頑張っていきたいと考えています。大口町は人口も増えているので、だんだん厳しくなりますが、20%に向けて努力していきたいと考えています。

サラダボールカンパニー（前田みどり） まだよく分からない部分もありますが、ありがとうございました。

具体的に家庭の主婦として、こんなものをこれぐらい減らしたら、「目に見える化」でやれば、実際の生活に役立つんじゃないかと思いました。

町長（森進） 最後に環境課長が本音を漏らしたと思って聞いていたのですが、平成16年ベースで3年を目途に20%削減という、平成17年11月に町民の皆さんとごみ減量宣言をしたわけですが、大口町は人口が少しずつではあるが増えている現状です。そういうことからすると、平成16年ベースで20%の削減はかなり大変な目標設定をしたんだと思います。それに向かって一生懸命住民の皆さんと努力しているし、また、目標達成に努めていかねばならないと思っています。

先ほど、岡議員から数値目標という話が出ました。前田さんの発言を聞いて何かご意見があればお聞きしたいと思います。どうですか、岡さん。

議員（岡孝夫） 結局はごみの重さなんですよ。生ごみが入っていると重い。燃やしにくいから燃料を使う。だから、生ごみの水分をいかに減らすかというのも一つの考え方だと思います。キッチンの三角コーナーに生ごみを入れて、そこからそのままごみ袋に入れたらやっぱり重いので、他市町ではそのまま捨てるんじゃないくて、一回ベランダで干して、それから入れなさいという指導をしているところもあります。

これは現実的ではないかもしれませんが、野菜の水分切るやつ、レタスを洗った後に洗濯機みたいにぐるぐる回すやつが生ごみの水分を飛ばすことに使えらしたら、水分量は減ると思います。濡れたままにせず軽くすることに工夫ができれば、かなり減るんじゃないかと思います。

町長（森進） やっぱり生ごみは水分の問題がいつも話題になります。具体的に、水谷さんは水分を減らすために実践していることがあれば、ご紹介いただきたいと思います。

秋田地区（水谷由美） 新聞にくるんで、水分を抜いてから捨てるぐらいしかないけど、そうすると新聞がぬれてしまうので、ごみに出すしかない。だから、悪循環になっています。

町長（森進） 昔は紙に水分を吸わせてということもあったんですが、その辺りの見解はどうですか。

環境課長（杉本勝広） 確かに紙に包んでいただければ、ごみそのものの水分は減るんですが、紙に染み込むので全体の水分量は変わりません。それから、周りから見えないように新聞紙を使われる方もありますが、新聞紙は資源として出していただくことをお願いしたい。

三角コーナーや水きりネットを啓発グッズで配ったこともありますが、結局は面倒くさいという意見が多く、やめてしまった経緯があります。いろんなご意見をいただき、水きりがキーワードだという意見が3日間とも多かった。皆さんも分かっていたいただいていることですので、そこを

ヒントとしていただいたと感じています。

町長（森進） 水分ということで関連するのかわかりませんが、今、環境課が取り組んでいるものをちょっと紹介します。

今もう一つ分別可能なものとして、ある程度まとまったものがあります。それは紙おむつです。紙おむつが分別可能ではないかと思って、環境課の方で先進の例、メーカーの情報等をいろいろ聞いて研究しています。これ辺りが分別できれば、もう少し焼却するごみの量は減るのかと思います。なにせ研究段階で、試行的に取り組んでいる市町もあるようですが、コストの話、回収ルートの話、その後の処理をどうするかということがつながっていかないということで、分かっているが具体的に取組めないというのが現状ですが、そんな取組みも環境課の方で検討を重ねていることを紹介させていただきます。

資源ごみの分別の方で、区長さんにはそれぞれの地元で大変ご苦勞をお掛けしていますが、これまでのやりとり、あるいはそれ以外でも結構ですけども、お話をいただければと思いますがどうですか、秋田の区長さん。

秋田区長（佐竹重夫） 資源ごみということではないが、スタンプ制度でスタンプ印のほかに小さいシールがある。あまり使用されていないと思います。各地区に半年分ずつ何十枚とシールをもらうが、実質は1、2枚使う程度。別になくてもいいんじゃないかと思う。スタンプ印の月日を合わせるのが小さくて合わせにくいので使っているのか知らないが、どういうことを使っているのか教えてほしい。

環境課長（杉本勝広） スタンプカードにスタンプを押して使っていただく代替として、シールを配っています。基本的にはスタンプ印をお願いしていますが、カードを忘れてきた人を救済する措置としてシールを発行しています。秋田区はほとんどスタンプで対応していただいています。集積場の人員の配置等の問題とかあって、シールが主流になっているところもあります。廃棄物減量推進員の説明会のときにはスタンプをお願いしていますが、どうしても忘れてきた人がいるため、その救済措置としてシールを配っています。

町長（森進） 時間も押してまいりました。

本日の懇談会は、大きく二つの構成で進めさせていただいています。一つは、大口町のごみの取り組みの現状についてパネリストの皆さんと話をすること、もう一つは、広域でのごみの問題が現状どうなっているか、今後どうなるのか、情報を共有していただきたいということです。

広域でのごみ処理の問題がどうなっているかということを、いま一度見ていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

＜環境課長、スライド「可燃ごみ焼却処理場の現状」に基づき説明＞

町長（森進） 広域でのごみ焼却処理施設の現状は、パワーポイントで見ていただいたとおりです。今朝の新聞に、地元の池野地区へ2市2町の首長と事務局が意見交換会に出席したことが記事に出ていました。池野地区は5つの町内会があって、そのうちの4つの町内会は白紙撤回が前提であれば意見交換会に応ずるが、現状のままでは意見交換会に応じることはできないということで欠席する旨の連絡がありました。残る1地域については、一部の役員さんに出席をいただき、我々と意見交換しました。この種の施設が必要であるということは、皆さん十分にご承知置きいただいておりますが、それが自分たちの生活圏域の中に来るということに関して、あるいはなぜ犬

山の候補地なんだということについて、私ども2市2町の統一的な意思であるべきであります、どうもそうではないんじゃないかというような記事、発言等が過去にあったわけで、それが理解できない。これだけ重要な施設を犬山の候補地に造るのであれば、まず何を差し置いても、4人の市長・町長が意思統一して、それで地元に入るべきではないか、それが先じゃないかということの指摘があったわけで、それはまさしくそのとおりだと思っています。

この種の施設は、技術が進歩してきているが、住民の皆さんに受け入れていただくのはなかなか難しい施設です。平成30年に供用開始するというスケジュールがあり、それまでの間は江南丹羽の施設を延命して、維持していかなければならない現状があります。これからも努力して、地元を受け入れていただけるような交渉を重ねていかなければならないと思っていますし、そのことについては、4首長とも意見が違うわけではないので、新聞等での報道、あるいは定期的に議会に報告させていただいていますので、そういう中でお目に留まればと思っています。

予定していた時間が来ましたので、本年度の南地域の地域懇談会はこれで終了させていただきます。私どもの取り回しが不十分で、パネリストの皆さんに平等に、皆さんの意図するところの発言をいただけたどうか疑問が残ります。今日傍聴に来ていただいた皆様もいろいろとご意見等があるかと思しますので、アンケートに記載していただきたいと思えます。毎年地域懇談会を開催していくことになっています。今日いただいたご意見を次回の参考にさせていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

本日もご主席いただいたパネラーの皆さん、傍聴者の皆さん、どうもありがとうございました。

地域振興課長(平岡寿弘) パネリストの皆さん、大変ありがとうございました。

最後になりますが、ごみ減量の取り組み、地域懇談会のあり方について、傍聴者の皆さんのご意見がお伺いできればと思っていますので、アンケートにご協力をお願いします。

これもちまして、終了させていただきます。ありがとうございました。